毎月届く加算分析レポートを院内の改善活動のきっかけに活用

日本病院会が1月22日に開催した「JHAstis（ジャスティス）」の勉強会で、福井厚生病院（福井市、199床：一般82床、地域包括ケア43床、回復期リハビリ33床、精神41床）の金森貴範氏（事務部長補佐兼庶務課課長）が講演。毎月配信されるJHAstisの「月次レポート」にある加算分析をきっかけに、関係部署へのヒアリングなど院内の改善活動を推進していることなどが報告されました。

福井厚生病院の金森貴範氏（事務部長補佐兼庶務課課長）

福井厚生病院では定期的に、院内の幹部（理事長、院長、副院長、看護部長、事務部長）と事務部門のスタッフがJHAstisレポートを確認しています。また、理事長が議長を務める法人運営幹事会（毎月最終火曜日開催）など3つの重要会議でも利用されています。

JHAstisの利用場所

- ・法人運営幹事会（議長は理事長）
管理職による意見交換、審議の場
毎月最終火曜日開催
- ・法人連絡協議会（議長は院長）
全職員の情報交換の場
毎月第一木曜日開催
- ・医局会（毎月第4金曜日開催）

同院で最も重宝しているのも月次レポートの加算分析。加算分析は毎月、退院支援加算や後発医薬品使用体制加算、リハビリテーション総合計画評価料などテーマを決めて、それぞれの加算算定マニュアルのほか、他病院とのベンチマーク分析の結果を掲載しています。

JHAstisの一番の利用方法

- 加算分析レポート
 - 18年4月 退院支援加算
 - 18年5月 後発医薬品使用体制加算
 - 18年6月 薬剤管理指導料
 - 18年7月 栄養食事指導料 特別食加算
 - 18年8月 リハビリテーション
 - 18年9月 摂食機能療法
 - 18年10月 リハビリテーション総合計画評価料

ベンチマーク分析の結果、改善が必要な加算については、関係部署へヒアリングしたりするなど、院内の改善活動を推進するきっかけになっています。ヒアリングを通じて、主に算定件数をいかに増やすかという視点で改善活動を行っています。

分母を拡げる取り組み

延べ患者数

実患者数

算定回数

因数分解は適度なレベルで留めておく

金森氏は、「ベンチマーク分析の結果を毎月、注視している。他病院の状況と比較できるというところが、JHAstisにおける一番の利用価値なのではないか」と評価しました。また、「部署を超えて、他部署の先輩や後輩たちと一緒に重要な情報を共有し合えるところもJHAstisのいいところ」と、チーム医療の推進にも一役買っていることについても言及しました。